

2008-2013年度 早稲田大学男女共同参画推進室 ワークライフバランス・サポートセンター 相談活動報告

1. ワークライフバランス・サポートセンターの概要

(1) 母体となる男女共同参画推進室発足の経緯

私立総合大学として全国の大学の先駆となるべき役割を担う本学は、125周年を迎えた2007年10月21日、「早稲田大学男女共同参画宣言」を発表した。

また、本学における男女共同参画の実現に向けて、男女共同参画推進室が発足した。

◇ 早稲田大学男女共同参画宣言 (2007年10月21日 抜粋)

- 1 早稲田大学は、教育・研究・就労の場における男女共同参画を実現するために、教職員・学生等の人的構成の男女格差を是正し、大学運営の意思決定における男女共同参画の実現をめざします。
- 2 早稲田大学は、教職員・学生等が、出産・育児・介護と教育・研究・就労を両立させることができるための効果的で具体的な措置を講じます。
- 3 早稲田大学は、男女共同参画社会における学問・研究が、多様な生の共存に貢献するものであることを自覚しつつ、今後とも、新たな社会の創造に向けた知の結集・人材の育成をめざします。
- 4 上記の目的のために、早稲田大学は、男女共同参画推進室を設置し、長期的な展望にたった「男女共同参画基本計画」を策定し、実施します。

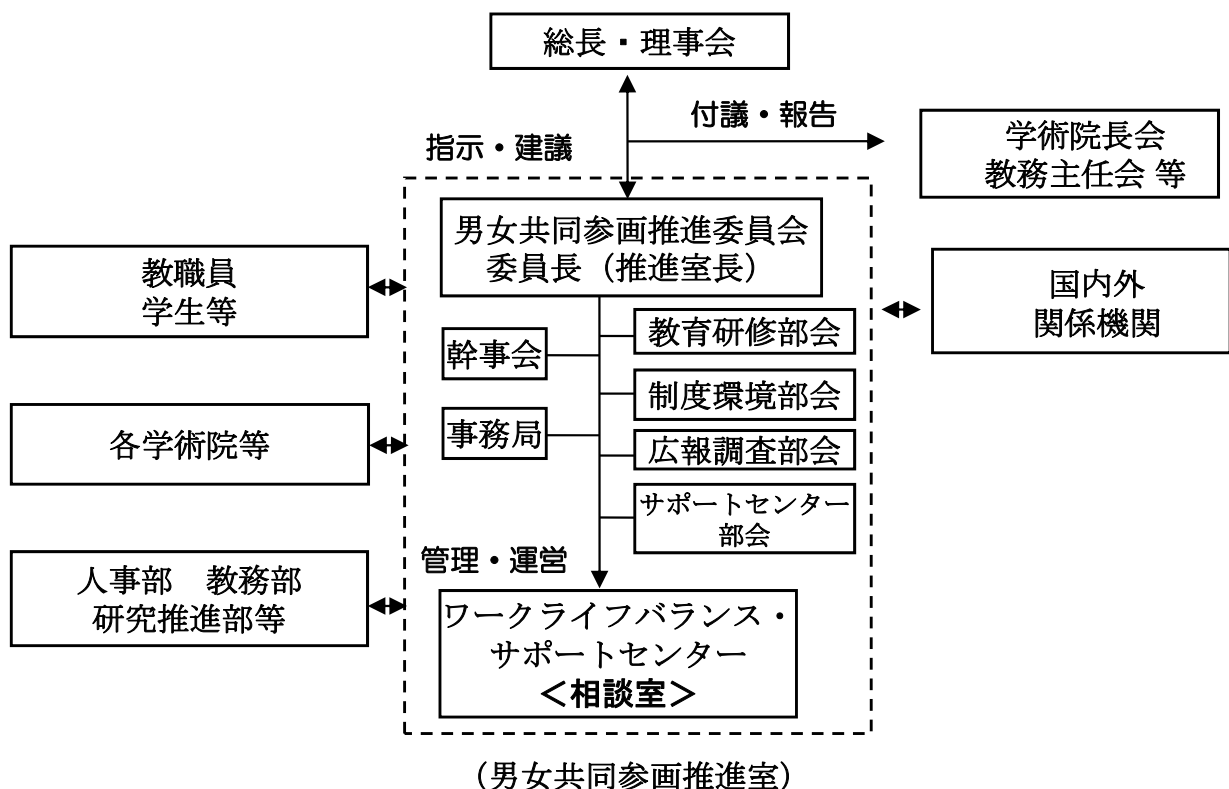
(2) ワークライフバランス・サポートセンター設置と相談活動開始の経緯

2008年9月、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業のひとつとして、西早稲田キャンパス「男女共同参画推進室」(60号館2階214・216室)内に、キャリア初期研究者両立サポートセンター(現:ワークライフバランス・サポートセンター)が設置され、他のキャンパスに先駆けて学内で初めてのワークライフバランス支援施設が誕生した。

キャリア初期研究者を中心に、全ての教職員・学生をしっかりとサポートする体制・組織作りをめざし、利用の拡大を念頭においた活動を開始した。

ワークライフバランス・サポートのための個別相談窓口として、ワークライフバランス・サポートセンター(以下、サポートセンターと略)内に「相談室」が設けられた。相談室は早稲田キャンパス10号館213室にも設置され、2008年9月より相談活動を開始した。また、2011年8月から、所沢キャンパスにおいても、保健センター相談室にて、相談活動を開始した。

〔男女共同参画推進関係の組織・体制〕



(3) サポートセンターの相談機能と扱う相談内容

サポートセンターの担う機能と扱う相談内容は、2008年12月5日に策定された10年間を目途とする「早稲田大学男女共同参画基本計画」に則っている。

ライフキャリアの観点からの＜キャリア形成支援＞、＜仕事(研究・教育)・学業とライフイベント(結婚、妊娠・出産、育児、看護・介護等)との両立＞に関する、相談・情報提供、各種制度の紹介や、適切な相談窓口へのリファー等を行うものとし、教職員・学生への総合的な相談・情報提供のできる人的資源として相談員が配置され、ニーズに応じた対応を行っている。

学内の既存相談機関(保健センター、ハラスメント防止室、キャリアセンター、リーガルクリニック等)との棲み分けをはかり、ワンストップサービスとなるべく、相談・情報提供の機能をめざしている。前述の諸相談機関への最適なリファーを想定している。

ことに、教職員からの相談、妊娠・出産・育児・看護・介護等と研究・学業・仕事との両立や就職にかかる相談、女性研究者支援、キャリア初期研究者や社会人学生・大学院学生のキャリア相談等は、昨今の新たなニーズに応え、サポートセンターに特化された相談内容である。

注) ワンストップサービスとは、どこに聴けばよいのか迷う内容、相談に値するか

躊躇する内容等について、1回・1か所で包摂的な相談対応を行ったり、情報を提供したりする機能という意味で用いている。

◇ 早稲田大学男女共同参画基本計画 (2008年12月5日 該当項目2 抜粋)

2 早稲田大学は、教職員・学生等が、出産・育児・看護と教育・研究・就労を両立させることができるように、効果的で具体的な措置を講ずる。

1) ライフイベントサポートシステムの改善と拡充

現行のライフイベントサポートシステムや施設の整備・改善を行い、教職員・学生等が、出産・育児・看護等のさまざまなライフイベントと教育・研究・就労・就学をさらに両立させることができるように努める。

2) キャリア初期研究者への支援

出産・育児等を経験するキャリア初期研究者が、研究・教育活動を継続できるように、また、中断した研究者が復帰しやすくするために、各種の支援策を講じる。

3) 女子学生の進学・就職支援

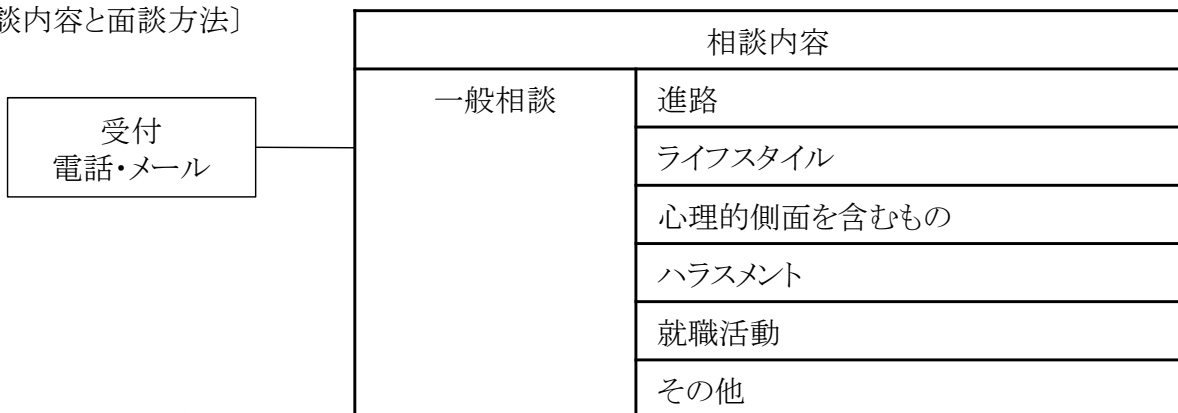
女子学生を対象とする女性の研究職へのキャリア支援の充実を図る。特に、理工系の女子学生に対し、研究職へのキャリア志向をうながすために、女性のロールモデルやキャリアパスを提示するなどのキャリア支援を行う。また、理工系等女子学生の少ない分野への進学選択についても、高等学校等との連携に努める。

(4) 相談体制:相談内容と面談方法、開設場所と開室時間

相談対応は、火曜日～金曜日の午後1時～5時の間、行っている。

メール・電話等にて相談予約を受け、相談日の確定をし、相談員が対面にて相談を受ける。相談員は各日1名、計2名で対応している。

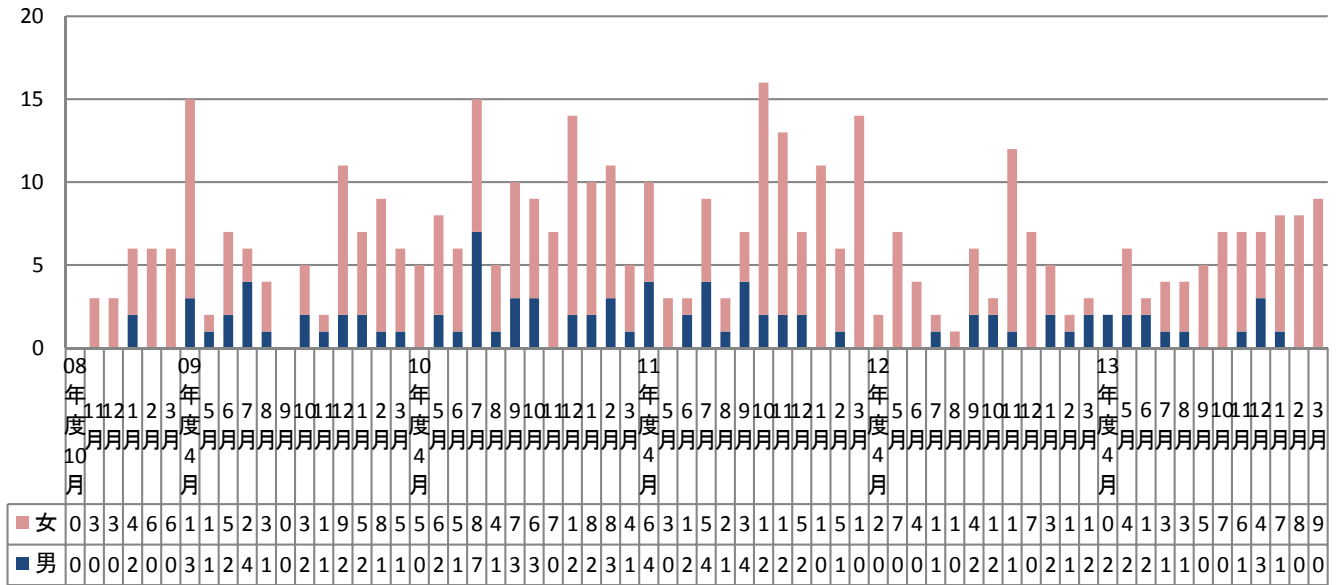
[相談内容と面談方法]



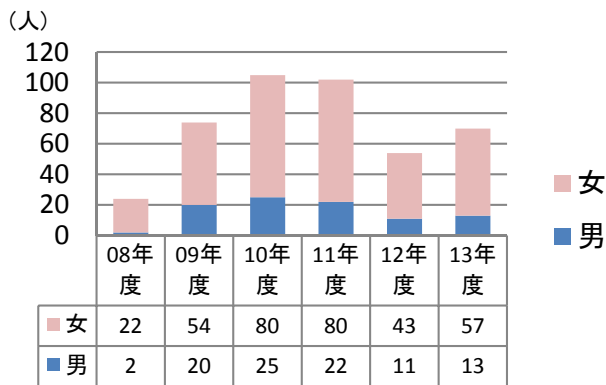
[開設場所と開室時間]

キャンパス	場所	開室曜日・時間
西早稲田キャンパス	60号館214/216室	火、水、木、金 13:00～17:00
早稲田キャンパス	10号館213室	火、水、木、金 13:00～17:00
所沢キャンパス	保健センター学生相談室	火 13:00～17:00

2. 相談件数の内訳



〔図1〕 相談件数(月別、男女別)



〔図2〕 年度別相談件数(男女別)

サポートセンター開設後、約4年半(2008年9月25日～2013年3月31日)の相談件数は、総計429件であった。

年度毎(2008年度、2009年度、2010年度、2011年度、2012年度)、月別、男女別の内訳を、〔図1〕・〔図2〕に示した。相談件数は、2008年度の相談期間が実質半年だったことを考慮すると、2009年度の相談件数は約1.5倍になっている。

2010年度は、2009年度の約1.4倍となった。この年度から、サポートセンターの利用案内を4・7・10・1月に、学内イントラネットであるWaseda-net ポータルへ定期的な掲載を開始したことなどが増加要因と考えられる。

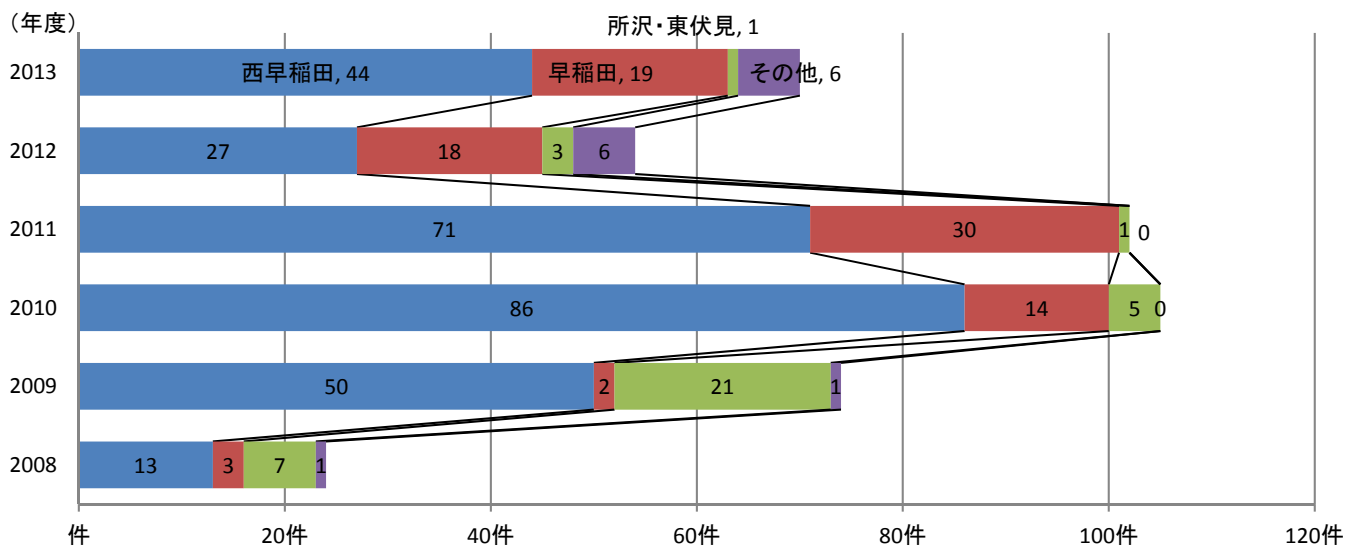
2011年度は、2010年度の105件とほぼ同数の102件であり、年間件数として落ちついてきている。2012年度は相談件数が減少したが、当センターの実施する気づきや学びを深めたり、つながりづくりを促進する講座・交流事業への参加者が増えており、開設後4年が経過し、当センターへの期待は相談対応のほか、各種事業への期待が高まっていることが伺える。

2013年度は相談件数が70件と増加に転じた。講座・交流事業への参加者が約200と開設以来の数を記録し、講座・交流事業への参加者が相談も利用する傾向がある。

月別については、年度により件数が異なっており傾向は見いだしがたいが、11・12月の件数増加は、進路相談が増えたことによるものである。

男女比については、2009年度は約1:2、2010年度、2011年度は約1:3であった。サポートセンターの相談室が女性のためだけのものではなく、本来の存在意義が学内に周知されてきたと同える数字といえよう。2012年、2013年も一定数、男性からの相談があった。

3. 相談場所



〔図3〕 年度別相談件数(キャンパス別)

2010年度までの所沢キャンパスの相談には、東伏見キャンパスでの対応も含む

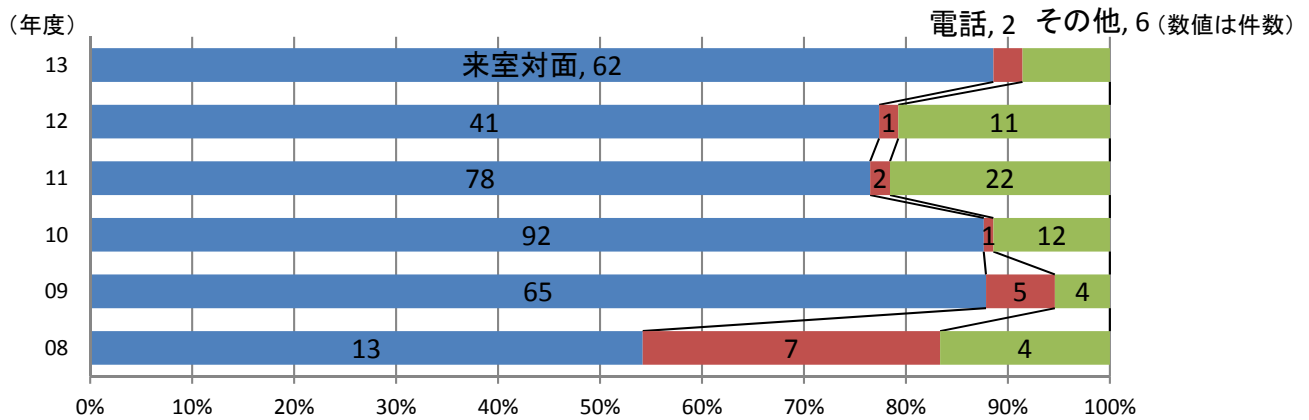
各キャンパスでの相談の内訳を、〔図3〕に示した。

2008年度～2010年度まで、西早稲田キャンパスのサポートセンター相談室、早稲田キャンパスの男女共同参画推進室の相談室の2箇所が専用の相談対応場所であった。所沢キャンパス・東伏見キャンパスでは、相談のニーズがあるものの専用の相談室がなく、相談対応にあたっては、相談員がそのつど両キャンパス内で適切な場所を探し、相談業務を行っていた。

2011年8月からは、所沢キャンパスでも相談業務を行う体制がスタートし、現在は、西早稲田・早稲田・所沢の3キャンパスで相談を受ける体制が整っている。

2010年度・2011年度には、学生・教職員数が最も多く利便性のよい、早稲田キャンパスでの相談の増加がみられた。

4. 相談形態



〔図4〕 年度別相談件数(相談形態別)

〔図4〕は相談形態の内訳である。

対面を原則としており、来室対面が主である。初回は必ず対面相談で受けることにしているが、2回目以降の相談で、相談者が出産直後や妊娠による体調不良の場合など、母体保護の観点から来室できない場合については、情報提供に限り、メールでの対応等も行っている。

西早稲田キャンパスのサポートセンターでは、秘匿性の高くない相談内容について、畳エリアで、共に来室する乳幼児を遊ばせながら相談を受けたり、ベビーカーを相談室に入れて乳幼児と一緒に相談を受けるなど、子ども連れの相談者への配慮を行っている。

サポートセンター相談室



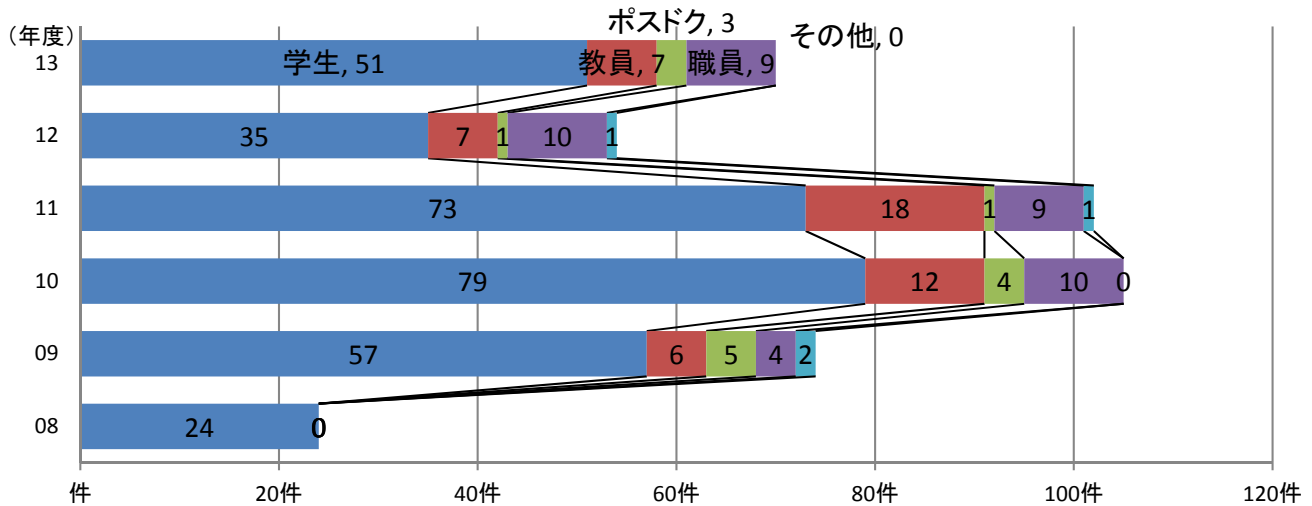
サポートセンター畳エリア



サポートセンター授乳室・搾乳室



5. 相談者属性



〔図5〕 年度別相談者件数(相談者属性別)

相談者の属性を、〔図5〕に示した。

開設時2008年度は学生のみだったが、2009年度は学生だけでなく、教員・ポストク・職員からも相談があった。サポートセンターの相談機能が学内に周知され始めたことにより、相談者属性が多岐にわたるようになっている。

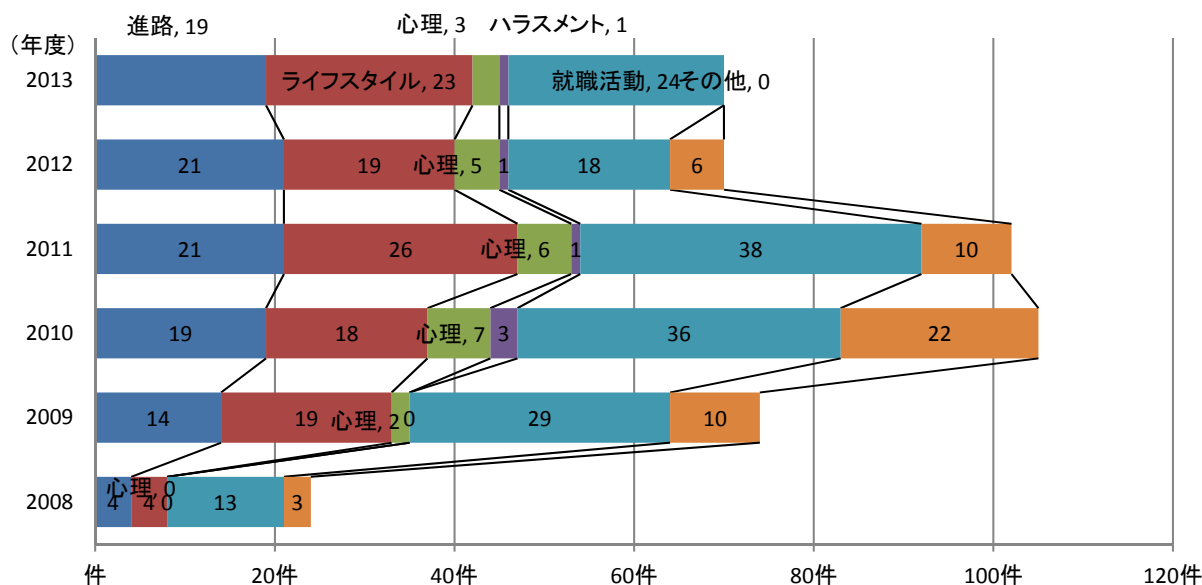
2008年度から2013年度まで、最も多いのは学生からの相談であり、相談開始の2008年度は100%、2009年度以降のいずれの年度も60%を超えている。なお、属性では学生に含まれるが、仕事をもちながら就学する社会人の大学院学生の相談も増えている。

教員からの相談件数も毎年一定割合あり、任期付・非常勤の相談件数が多い。

また、職員（専任、非常勤とも）の相談機関としても周知がされ、4年続いて10件前後の相談が寄せられている。

学生、キャリア初期研究者の教員の相談には、海外から学業・研究の場に本学を選んだ在籍者が複数あり、ワンストップサービスしての機能を果たしているといえる。

6. 相談内容



〔図6〕 年度別相談件数(相談内容別)

相談内容の内訳を〔図6〕に示した。

以下、年度毎の特徴をあげる。なお、2008年度は後期半年間の相談受付で件数が少なかったため、2009年度とあわせて記述した。

相談内容は多岐にわたるが、主たる分類として、5分類している。

- ・＜進路＞ (大学院や博士課程進学、長期的展望に立ったキャリア形成等)
- ・＜ライフスタイル＞ (結婚・離婚、妊娠・出産、育児、看護・介護等のライフイベント、及び、ライフイベントと学業・仕事：研究・教育との両立課題)
- ・＜心理＞ (メンタル系相談は受けつけていないが、主訴は他在であっても内容を聴いてみると心理的側面を呈する対人関係の相談等)
- ・＜ハラスメント＞ (アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・モラルハラスメント・セクシャルハラスメント・デートDV・ドメスティックバイオレンス等のワンストップサービス)
- ・＜就職活動＞ (学部生はキャリアセンター管掌であるが、修士・博士課程・研究職や社会人大学院生のセカンドキャリア、転退職に伴う就職相談等)
- ・＜その他＞ (学内制度や学内・職場の人間関係等、5分類に含みがたい相談)からなる。

【2008・2009年度】 ・ ・ ＜就職活動＞相談が大半

＜就職活動＞相談のおおかたは修士課程の女子学生が占めており、将来のライフスタイルを見据えての＜進路＞相談を含む、＜就職活動＞についての相談であった。仕事と家庭生活の両立を念頭においての進路・就職相談であり、将来にわたって仕事を継続していく女子学生が、キャリアデザインを相談できる場が学内で他に存在しないため、ニーズが集まっている。

＜ハラスメント＞に関する相談はなく、＜心理＞にかかわる相談も少ない。相談者が適切に学内の相談機関を使い分けられているといえる。また、男女共同参画推進室の相談業務として受けられない内容が示された場合には、相談員の判断でしかるべき学内の担当箇所や、外部の相談機関等を紹介している。

＜ライフスタイル＞の相談内容として、子どもを保育園へ入園させたいのに空きがなく困っているというものが度々あった。学内での託児施設を求める声も複数あがった。

＜その他＞13件の内容は、将来の進路を見据えての履修・資格取得の相談、男女共同参画推進のための要望等であった。

【2010年度】・・・<進路>・<就職活動>相談が半数

継続して、<進路>・<就職活動>相談数が顕著であった。
その多くが、理系・文系の修士課程の学生の、将来を見据えての進路選択と、それにとりまう就職活動についての相談であった。

次いで多い<ライフスタイル>関連では、子育てと研究・仕事の両立についての相談、妊娠・出産・子育てを経験しながらの今後のキャリア形成について悩む、という相談が目立ち、すべて女性からの相談であった。

妊娠・出産・子育てが想像以上に困難をきわめる現実を前にして、自分の意思に反して、今まで築き上げてきた職業キャリアの断念を考え始める。そうした女性が、大学において少なからず存在すると、相談場面からみえてくる。

ライフイベントと研究・仕事を両立させての生活の困難さを想像し、実際に経験する前から就業継続について悩む相談も複数寄せられた。

研究者のポストは少なく、雇用状況が不安定（非常勤や有期雇用）であり、勤務時間の不安定さから保育園への登録もままならないことから、一般的な就業より、先行きが見定めがたく、悩み迷う側面が強い。

また、前年に引き続き、キャリア初期研究者の将来的な職業キャリア形成に関する相談をたびたび受けた。将来的にアカデミックな進路を選択するかどうかが迷い悩む、任期付きの職を転々とする働き方への不安など、大学ならではの課題が、男女を問わずあげられた。

<心理>・<ハラスメント>に関する相談は、男女共同参画の問題がかかわる内容であった。女性の相談者から、学内のより一層の環境・制度の充実・意識改革を望む声が複数寄せられた。

【2011年度】・・・<進路>・<就職活動>相談が6割、<ライフスタイル>相談が顕著に増加

<就職活動>に続いて、<進路>相談が多い傾向は依然として続き、目前の就職活動対策でない、キャリア形成を鑑みた進路・就職相談を受けつける相談機関としての、学内での定着がうかがえる。

結婚・出産・育児と仕事を継続していくにはどのような進路選択（民間企業・公務員等含め）を考えていけばよいかという、女子学生のキャリア形成相談も多かった。

教員の相談（任期付・非常勤等）のキャリア形成、ライフイベントとの両立に関する相談も2010年度より増えた。

先輩からの紹介という来談者、留学生の来談も増えてきた。社会人大学院学生による、修士号取得後のセカンドキャリアについての相談、子どもを連れての研究継続や就職に関する相談が複数寄せられるようになり、サポートセンターという相談機関の特長として定着してきた。

子どもを連れての来談は、2011年度が従来より最も多かった。学生結婚をし、育児をしながらの<就職活動>について、生活設計についての相談も複数あった。

<ライフスタイル>の相談では、妊娠・出産・育児と仕事・研究の両立に関するものが多い傾向は同様である。加えて、介護についての悩みに関するもの、介護情報の提供を求めるものが複数寄せられ始めたことが、2011年度の特徴であった。

【2012年度】・・・＜進路＞・＜就職活動＞相談が6割以上、＜ライフスタイル＞相談も多い傾向

仕事や研究という将来の＜進路＞、キャリア形成視点での＜ライフスタイル＞、生き方・働き方を含めた＜就職活動＞について相談したいという、学生やキャリア初期研究者の来談が多かった。

講座・交流事業に参加して当相談機能の特長を知っての来談や、搾乳室を利用して研究者としてのキャリア形成に関する相談につながった相談も複数あり、リピーターが多く、修学・進路・就職と相談内容が進み、キャリア形成の伴走者としての相談機能も果たしてきている。

そうした相談者からは、企業・公務員への就職や、研究者への応募結果についての報告来談・報告メールがあり、本相談機関の特長が顕れているといえよう。

女子学生や女性研究者からの相談としては、結婚・出産・育児との両立を鑑み、社会情勢や展望を聴きたいというものが多く、支援体制への疑問・危惧や、キャリアを志向すべきかの迷い、そして、ロールモデルやメンターの不在による漠然とした不安の提示が多くあった。

また、子どもを抱えての研究職への応募や、子育てとの両立に関する相談も複数あった。

育児をしながらの研究職への応募・継続に困難を感じるキャリア初期女性研究者を励まし、応募プロセスに寄り添いゴールをめざした。

情報が氾濫する現在にあっても、女性のライフキャリアについて、相談したり、ともに考える社会資源・人的資源が容易には存しないものと思われ、今後も、当相談機能の特化すべき役割であろう。

＜就職活動＞については、社会人大学院学生の進路・転職・起業についての相談も寄せられた。

留学生の就職、結婚・出産と仕事・研究職との両立、日本社会での処し方や就職活動の進め方についての相談もあり、多様性を受け容れる男女共同参画・ダイバーシティを標榜する相談機関にふさわしいといえよう。

＜ライフスタイル＞の相談では、子育て、家族、介護に関するものが多く、学生結婚をするにあたっての情報提供といった要請もあり、当相談機関の間口の広さが理解されてきているといえる。

＜心理＞面の相談では、職場の人間関係、社会人大学院学生の職場の問題などが寄せられた。

【2013年度】・・・＜進路＞・＜就職活動＞相談が6割強、＜ライフスタイル＞相談が3割以上を占める。＜ライフスタイル＞相談はおもに女性

仕事や研究という将来の＜進路＞、子育てを含めたキャリア形成視点での＜ライフスタイル＞、生き方・働き方を含めた＜就職活動＞について相談したいという、学生やキャリア初期研究者の来談が多い傾向は続いている。

講座・交流事業に参加して、当相談機能の特長を知っての来談が2012年度以上に増えた。講座・交流事業は、キャリア形成にかかるテーマが核となっており、相談機能の周知もはかっている。そこから相談が始まって修学上のサポート資源として利用されていると言える。

女性研究者からの相談としては、子どもを抱えての国内外の研究機関への応募、出産・育児休業に入るにあたっての諸制度の活用、また、かつて相談や交流事業の利用経験があり、子育て期が一段落して研究職への応募について相談を再度活用したいという利用者や、修士時代に相談して課題を乗り越え、博士課程に進んでまた遭遇したテーマについて相談したいという節目ごとの利用もあった。ワンストップサービスの広い受け皿として、継続的に存在する本相談機関が安心材料であり、利用価値のあるリソース資源として認知されていると感じられる。

また、子育てと研究の両立に関する相談の来談者は、他の女性研究者はどうしているかという情報提供を求めてくる場合や、制度面での要望を伝えられるケースもままあり、有用な情報源としての機能、ニーズを集約する機能を果たすことが、一層求められていると感じる。全くの情報提供や、どうしたらいいか途方に暮れての相談というより、自分の状況や今後の展望を話すことで、自分の考えを整理して明確化したり、それ以上の情報提供を得たいという相談も複数あり、女性研究者支援としての機能を果たし得ていると感じられる。

<進路>については、子育てをしながら研究職キャリアをどう構築していくか、進路選択において、起業するか就職するか、研究職の道に進むか就職するか、どう進んでいけばいいか迷うという相談などがあった。ロールモデルの提示や、話しを肯定的に聴いて本人の考えを「見える化」し明確にしていくなかで、定まっていくなかで事例もままあった。複数回来談するうちに、自身の行動も伴い、道が決まっていって報告がなされる事例もあった。

<就職活動>については、子どもをもつての就職活動はどのようにすればいいかという相談や、留学生からの結婚・出産と仕事との両立、就職活動の進め方についての相談が2013年度もあり、当相談機関のスタンスが、ダイバーシティの観点に立ち、キャリア形成支援を行う機能をもっていることが認知されている結果と思われる。

<ライフスタイル>の相談では、女性のみならず、男性からも育児休業取得についての相談があり、情報提供やエンパワーメントに徹した。

介護や婚姻関係に関する相談があるのも、ワンストップサービスとしての当相談機関の特長である。介護や婚姻関係に関する相談については、情報提供や学内の専門相談機関の紹介を行っている。

<心理>面の相談では、職場の人間関係などが寄せられた。

以上